

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	アコライト	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	セージ	Lv.1:	メイジ	性別	男
称号クラス				年齢	21
種族	アーシアン			境遇	トラック
出自(効果)	ハーレム			目標	絆

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	10	9	8	18	8	9	9
ボーナス	3	3	2	6	2	3	3
クラス修正	0	1	0	2	1	1	1
他修正							
能力値	3	4	2	8	3	4	4

HP	41
MP	46
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	クラブ	至近	-1	2	0	0	0	0	0
左手	ハイクオリティシールド		0	0	0	5	0	-1	0
頭部	ハット					1			
胴部	レザーアーマー					5			-1
補助	ポイントアーマー				-1	3			
装身具	聖印								
能力値			4	0	2	0	4	5	8
スキル									
その他	Eスマートフォン							-1	
総計(右)			3	2					
総計(左)			4	0	1	14	4	3	7
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	8		1	9	+ 2 d
アイテム鑑定	8		1	9	+ 2 d
魔術判定	8		1	9	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定	4			4	+ d

所持品	
ト L	
冒険者セット	
ベルトポーチ	
異次元バック	
L幸運のストラップ (メイキング)	
毒消し*3	
栄養ドリンク*5 (メイキング)	
Eスマートフォン (メイキング)	
現在重量:	15
最大重量:	22
所持金:	25
預金・借金:	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
アーシアン:召喚	★	-	メジャー	-	自身	自動成功	1	
効果:	ダイスロールの直前に使用、それに+2d。また作成時のみ現代アイテムの価格を1%にする							
プロテクション	2	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1/防御	
効果:	対象が受ける予定のダメージに-[SLd]							
ヒール	★	4	メジャー	20m	単体	魔術判定	-	
効果:	【HP】を[3D+CL*3]点回復する							
ホーリーライト	★	6	メジャー	20m	単体	魔術判定	-	
効果:	対象に魔法攻撃、ダメージは2D(貫通ダメージ)となる。「分類:妖魔・魔獣・魔族」なら1点でもダメージ与えると[威圧]付与							
アフェクション	★	-	DR直後	20m	単体	自動成功	1/ナリオ	
効果:	受けるダメージは0じゃ							
	1							
効果:								
コンセントレイション	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	魔術判定に+1D							
マジックロック	★	5	メジャー	至近	効果参照	魔術判定	-	
効果:	罨解除判定を魔術判定で代用判定し、[宝箱][扉]に[鍵A]を設置できる							
	1							
効果:								
アドバイス	2	-	判定直前	20m	単体	自動成功	SL+1/ナ	
効果:	自身以外が行なう判定に+1D							
エフィシエント	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	ダイスによって効果を求める魔法攻撃・HP・MP回復・ダメージ増加・ダメージ軽減を行う魔術の効果に+[SL*2]							
ヒストリー	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	その街の歴史や文化、著名人などについての【知力】判定に+1D(様々な地方の歴史について詳しい…)							
ファッションブル	1	-	判定直前	-	自身	自動成功	SL/ナリオ	
効果:	判定達成値+1、失敗で「【精神】」点の【MP】をロス。シーンに女性がない、対決で相手が女性なら使用不可							
トランプ	★	-	判定直前	-	自身	自動成功	1/ナリオ	
効果:	情報収集の判定に+2Dする							
トレーニング:知力	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	【知力】基本値+3							

レベル10 プロテクション100 ホーリーライト★0 ヒール★0 コンセントレイション★0 マジックロック★

レベル20 プロテクション200 CC:セージ00 アドバイス100

レベル30 アフェクション★0 エフィシエント100 アドバイス200

-----

<川田財閥>

1年前の二十歳の誕生日、俺は川田の姓が好きじゃなくなった。名前も顔も知らないお嬢さんと結婚しろと言われて。何故そうしないといけないのかも。理屈ではそうするのがいいと理解できても、俺の気持ちは納得がいかなかった。俺はもっとたくさん女の子と甘酸っぱい恋をしたかった。それなのに…それなのに…

<きっかけ>

新作のスマートフォンの発売日の前日のことだ。俺はそれをいち早く手に入れようと寝具や栄養ドリンクをリュックに詰めて徹夜の戦いを挑もうと意気込み、発売店へと向かっていた。今日も護衛兼幼馴染のクーちゃんの迎えと共に一日が始まる。そう思いつつ青信号の横断歩道を渡ろうとしたとき、トラックがもの凄い速さで突っ込んできた。『轢かれる…!』そう思った俺はせめてもの抵抗とばかりにクーちゃんをかばうような姿勢となった。短い人生だったな…と思い目を閉じた。

<召喚>

次の瞬間聞こえたのは、「声」だった。誰かが俺を呼んでいる——

「——て……けて…助けてください…」 声の主はどこか悲しそうだった。理由は分からないけど、その人に泣かないで欲しかった。だから俺はこう言った。「絶対、助けに行くよ」

